

燧 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
香川県	<p>賀茂神社長床神事（三豊市）</p> <p>※香川県指定無形民俗文化財</p> <p>賀茂神社長床神事保存会</p> 	<p>長床（ながとこ）の神事・ナナタビハンノツカイ・お船の巡幸等、県内では類例を見ない神霊を迎える特別な神事である。祭礼は、神船が町内巡行に出た後、長床の儀式が始まる。毎年10月第2日曜日に開催される。</p> <p>長床の建物は本殿の西にあり、当日は竹矢来を巡らし、正面には間口が一間半位の門を作り、高張り提灯を立てる。長床では、床を背にして年寄が座り、頭屋が左右に分かれて座ると「舞酌」と称する袷を着た少年6人が2組に分かれ、1対となり酌をしていく。その間、謡曲の加茂・三輪等の脇能物の謡を唄う。やがて町内を巡幸した「御船」が、社の鳥居まで帰ってくると、「ハナデン」が、「御船が帰ってきたので、早く迎えに出るように」と告げる。</p> <p>しかし、宴席の年寄も頭屋の人々も、「まだまだもてなしが足りない」と言って、なかなか腰を上げない。ハナデンが、御船と長床の間を七度半も往復すると、やっと腰を上げて迎えに出る。これを「ナナタビハンノツカイ」と呼んでいる。その後、御神体は鳳輦（ほうれん）に移されて、境内の西側にある浜ノ丁旅処頓宮に安置される。</p>
広島県	<p>吉和太鼓おどり（尾道市）</p> <p>※広島県無形民俗文化財</p> <p>連絡先：尾道市文化振興課 TEL：0848-20-7425</p>  <p>URL： http://www.hiroshima-bunka.jp/modules/newdb/detail.php?id=291</p>	<p>戦に敗れた足利尊氏が西走中に尾道の浄土寺に立ち寄り、ばん回を祈願した際、吉和の漁民が船手として従軍した。その後、尊氏は九州を統一し東上する途中、再び浄土寺に船を寄せて戦勝を祈願し、吉和漁民に褒賞を与え、御座船の型を漁船に用いることを許した。この恩賞に感激した吉和漁民が大太鼓と小太鼓を組み合わせて踊ったのが始まりと伝えられ、隔年の8月18日に浄土寺に奉納される。</p> <p>また吉和地区に厄病が蔓延した際、浄土寺の観音様に祈願したところたちまち病気が治ったので、お礼として旧暦の7月18日にこの踊りを奉納したともいわれている。</p>
	<p>棕浦（むくのうら）の 法楽（ほうらく）おどり（尾道市）</p> <p>※広島県無形民俗文化財</p> <p>棕浦法楽会保存会 （広島県尾道市因島棕浦町）</p>	<p>法楽おどりの起源は明らかでない。地元の所伝によると、中世に因島を中心に活動した海賊衆（いわゆる村上水軍）が、出陣のときは合戦の勝利と兵士の安全を祈り、帰陣のときは勝利を祝うとともに、戦死者の追悼を行ったといい、この出陣・帰陣の行事を起源とするという。若武者らしい軽装、刀を頭上にかざしての早駆けの姿勢や跳ぶような動作は、</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
広島県		<p>こうした海賊衆との関連をうかがわせる。</p> <p>江戸時代となり、海賊衆としての活動が禁止されると、この行事も次第に変容し、「虫追い」「五穀豊穡」「疫病払い」などを祈願する行事となった。さらに明治時代になると、旧暦の7月16日（新暦の8月15日午後4時から）に行われる送り盆の行事となった。因島一円で行われていた法楽おどりも、現在は、棕浦と外浦（とのうら）の2か所のみで行われている。開催場所は、尾道市因島棕浦町内の5か所（良（うしとら）神社境内、金蔵寺（きんで開催ぞうじ）、胡堂跡地前、棕浦海岸、墓地の前）である。</p>
	<p>津部田（つぶた）住吉祭りの曳船（尾道市）</p> <p>※尾道市民俗文化財</p> <p>津部田伝統保存会</p>  <p>URL: http://www.hiroshima-bunka.jp/modules/newdb/detail.php?id=294（ひろしま文化大百科 HP）</p>	<p>住吉祭りは約300有余年前の江戸時代初期、海運の隆盛を祈願して始められた。当時津部田地区は天然の良港で五鳥（ごからす）神社近くまで海で安芸の宮島の管絃祭りのように管絃船を海に浮かべ巡幸していた。</p> <p>お囃子のチャンギリ、戻り太鼓は北前船が東北から運んできたもので青森のねぶた祭り、秋田の竿灯のお囃子によく似ている。江戸時代、元禄年間、塩田を開拓するため海が埋め立てられ、管絃船は陸に上がり、担がれるようになった。住吉祭りに、男神輿、女神輿、子供神輿の舟形三神輿で町内を練り歩く。住吉神社境内では、神輿まわしなど勇壮な姿が見られる。3艘の曳舟を担ぎ、五鳥神社に奉納する。毎年、7月の中から下旬に、尾道市向島町津部田の五鳥神社で開催される。</p>
	<p>岩子島（いわしじま）厳島神社管絃祭（尾道市）</p> <p>※尾道市民俗文化財</p> <p>岩子島民俗文化保存会</p> 	<p>岩子島厳島神社は一説では安芸の宮島より古い神社だとも伝えられ、江戸時代寛永9年（1632）に再建された記録が残っている。祭りは宮島の管絃祭の流れを汲んでいる。</p> <p>岩子島沖合で御座船、伴走船の提灯がゆらめき、幽玄な雅楽の調べが響き、幻想的な平安絵巻が繰り広げられる。</p> <p>管絃祭は、毎年7月下旬または8月上旬に、尾道市向島町岩子島の厳島神社で開催される。</p>
	<p>浮鯛祭り（三原市）</p> <p>連絡先：三原市漁業協同組合 TEL 0848-62-3056</p>	<p>三原市幸崎能地沖では、かつて潮流の影響により浮き袋の調節ができなくなった鯛が浮く「浮鯛」という現象が見られた。この「浮鯛」にちなんだ浮鯛</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
広島県		<p>祭りが数百年にわたり行われている。この神事のいわれは、神功皇后が三韓征伐の際に能地沖に軍船を泊め、海神に供えるため海中に酒をそそいだところ、鯛が酔って浮上した。そこで漁民がその魚を獲って献上したところ、皇后は大変喜び、漁民に全国どの海に行っても漁をしても良いとされたという。毎年3月の第4土日に春祭りで開催される。</p>
	<p>権伝馬（かいでんま）（大崎上島町）</p> <p>連絡先：大崎上島町観光協会 TEL0846-65-3123</p>  <p>URL： http://www.hiroshima-bunka.jp/modules/newdb/detail.php?id=895</p>	<p>古くは村上水軍の襲艇（早船）にルーツを持つといわれる権伝馬競漕。大崎上島町の東野では住吉神社、木江では巖島神社、沖浦では恵美須神社の祭礼の伝統行事として行われている。船の大きさは12メートル左右に7名の漕ぎ手が座り、舵取りの他太鼓叩き、船首と船尾には子供が乗る。レースの合間には子供が「だいふり」と「けんがいふり」と呼ばれる舞を披露し祭りを盛り立てる。</p> <p>この権伝馬競漕は6月の旅する権伝馬、7月下旬～8月上旬の木江十七夜祭、ひがしの住吉祭で見ることができる。</p>
	<p>能地春祭のふとんだんじり（三原市幸崎町）</p> <p>※広島県無形民俗文化財</p> <p>連絡先：三原市教育委員会文化課 文化財係 TEL 0848-64-9234</p> <p>E-mail： bunka@city.mihara.hiroshima.jp</p> 	<p>（由来）幸崎町能地は、近世に家船で瀬戸内海各地に進出した。各地に寄留し、枝村（分村）を形成していった。年2回は親村である能地に帰ってくるようになっており、各地から情報や文化を伝えた。その一つに今日の浜の祭を構成する中の「獅子太鼓」と「ふとんだんじり」がある。佐江崎村誌（昭和元年、1926年）には、「伊予多度津方面より見て帰りし・・・」と述べられており、約250年位前に四国方面から伝えられたものである。</p> <p>（内容）毎年3月、浜の氏神である常磐神社の祭礼が行われる。通称「ふとんだんじり」と呼ばれるこの祭は、神明祭から始まるが、今日では、3月の第4土・日曜日に行われる「ふとんだんじり」と「獅子太鼓」の二つがメイン行事となって伝承されている。この祭には、4町内会から各1台の楽車が出され、神輿とともに町内にある3神社（常磐神社、幸崎神社、老婆社）に奉納される。楽車は赤蒲団が7枚積まれ、中に太鼓打ちに決まった子ども8人（各町内2人）が各々の楽車に乗り込み、若者達がかついで町内を練り歩きながら神社へと進む。獅子太鼓は町内を出発する時、楽車に乗り込む時等に打たれますが、8挺の太鼓を並べて打つのは、3神社の社前で行う奉納太鼓のみである。現在、38手の打ち方が伝えられている。</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
愛媛県	<p>西条祭り（西条市）</p> <p>※西条市の指定無形民俗文化財</p> <p>西条市役所 観光物産課 TEL 0897-52-1446</p> <p>URL : http://iyokannet.jp/front/spot/detail/place_id/2552/</p> 	<p>西条祭りは、約 150 台余りのだんじりやみこしが奉納される絢爛豪華な祭りである。祭りの目玉は 10 月 16 日の「川入り」で、13 時頃から各だんじりは市内と伊曾乃神社の間を流れる加茂川河川敷に集合し、夕闇迫るなか神様の御神輿の渡御を見送ろうと、約 80 台余りのだんじりが土手にずらりと一列に並び提灯を灯す様は幻想的で壮観である。祭りの終わりを惜しみ、御神輿を川から出さまいと伊曾乃地区のだんじりが川の中で御神輿を取り巻く様は言葉では語れない迫力がある。</p> <p>もともとは石岡神社、伊曾乃神社、飯積神社の三神社の祭礼を指していたが、近年、嘉母神社の祭礼もこれに含めた祭りを西条祭りとしている。それぞれの神社によって、祭礼に奉納される山車は異なっており、石岡神社、伊曾乃神社では楽車（地元では「だんじり」と称する）と御輿屋台（地元では「みこし」と称する）が、嘉母神社と飯積神社では太鼓台が奉納される。ただし石岡神社では御輿屋台のことをさして「太鼓台」と呼んでいるが、本来の御輿屋台の分類は太鼓台に属している。</p>
	<p>三島水軍鶴姫まつり（今治市）</p> <p>しまなみ商工会大三島支所 TEL : 0897-82-0795</p> <p>URL : http://www.go-shimanami.jp/event/m07/15.html</p> 	<p>大三島に因んだ「鶴姫行列」と「鶴姫レース」をメインとした「三島水軍鶴姫まつり」を実施し、歴史ある観光地にふさわしいイベントとして、レジャーシーズンにあわせた効果的なしまなみ地域への集客をアピールすることにより、県内外の観光客誘致を図るとともに周辺住民の活性化と観光振興に寄与する。</p> <p>開催時期：毎年 7 月下旬頃開催 開催場所：宮浦港周辺（今治市大三島町宮浦） 事業内容：1. 鶴姫行列 2. 鶴姫レース（権伝馬レース） 3. ステージイベント他</p>
	<p>水軍レース大会（今治市）</p> <p>水軍レース実行委員会 （事務局：宮窪町漁業協同組合） TEL : 0897-86-2008</p> <p>URL : http://www.go-shimanami.jp/event/m07/06.html</p>	<p>「水軍レース大会」は、約 450 年前、村上水軍が使用していたとされる和船（小早船）5 隻を復元し、200 メートルの直線コースのタイムを競う和船レースをメインとして、この他にも地元の郷土芸能披露、潮流体験等を企画し、周辺地域はもとより県内外の観光客誘致を図り、地元の活性化及び観光振興に寄与するもの。</p> <p>開催時期：毎年 7 月下旬頃 開催場所：村上水軍博物館前特設会場（今治市宮窪町宮窪） 事業内容：1. 水軍レース（62 チーム参加）</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
愛媛県		<p>2. 宮窪夢花火 (1) 郷土芸能 (2) 餅まき (3) 花火大会</p>
	<p>龍神社の祭礼（今治市）</p> <p>※愛媛県指定無形民俗文化財</p> <p>今治市観光課 TEL：0898-36-1541 九王獅子連</p>  <p>URL： http://www.islands.ne.jp/imabari/kan-ko/tsugi/index.html</p>	<p>九王龍神社に約 200 年の昔から受け継がれてきた伊勢代神楽の流れを汲む伝統芸能で祭神の海上渡御の先導として御旅所までの海上及び道中において繰り広げられる。神輿船に随行する獅子船の船上で行われる獅子舞、継獅子（三継、四継）が奉納される。</p> <p>開催時期：毎年 5 月第 3 日曜日 開催場所：九王浜 200m沖（今治市大西町九王） 行事内容：継獅子、神輿船に随行する獅子船の船上で行われる獅子舞。</p> <p>演目 ・悪魔払い ・立芸（三継・四継・五継） ・餅つき</p>
	<p>大浜の權伝馬（今治市）</p> <p>今治市観光課 TEL：0898-36-1541</p> 	<p>大浜八幡大神社の祭礼で、二艘の伝馬船にそれぞれ船首船尾に踊り手の男児 1 名ずつと囃子方がのり、船首は「ボンデン」船尾は「剣權」をもって踊る。毎年 10 月第 2 日曜日に大浜八幡大神社（今治市大浜町 3 丁目）で開催される。</p> <p>※現在は 1 隻のみで運航。もう一隻は港に係留し、展示。</p>
	<p>椋名（むくな）の權伝馬（今治市）</p> <p>今治市観光課 TEL：0898-36-1541</p>	<p>渦浦八幡神社の祭礼で、神輿船 1、權伝馬 1、曳き船 3、の計 3 隻で、太鼓と音頭に合わせて、それぞれがボンデンと剣權を持つ歌舞である。</p> <p>毎年 10 月体育の日とその前日に、椋名沖の海上（今治市吉海町椋名）、神輿の海上御渡の練りに伴い行われる。</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
愛媛県	小部（おべ）の獅子舟・神輿舟（今治市） 今治市観光課 TEL：0898-36-1541	白玉神社、素鷲（すが）神社の祭礼で、神社周辺で神輿2基と獅子の練りを行い、漁船4隻（獅子舟2隻・神輿舟2隻）が海上で継獅子（二段・三段）を演ずる。 毎年5月第4日曜日に、白玉神社、素鷲神社境内から小部港までの往復と小部港にて開催される。
	尾形八幡秋祭り（今治市） 今治市観光課 TEL：0898-36-1541	尾形八幡神社の祭礼で、引き船、ダンジリ・獅子を乗せた船、櫓、神輿御座敷船など計12隻が幟旗で飾り、海上に一行で並び海上を進む。 毎年10月（第2日曜日と体育の日の2日間）に宮窪港沖の海上（今治市宮窪町宮窪）で行われる。

安芸灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
広島県	柏島の管弦祭(柏島神社大祭)(呉市安浦町) 連絡先：安浦漁業協同組合 TEL0823-84-2003 URL: http://www.hiroshimabunka.jp/modules/news/article.php?storyid=61	呉市安浦町の無人島柏島にある柏島神社に伝わる神事。毎年7月上旬に豊漁と海上交通の安全を祈願して開催される。尾道吉和や地元安浦などの漁民が漕ぐ引き舟が御神体を載せた御座船を先導し、周囲4キロメートルの柏島を1周する。後方には大漁旗を掲げた漁船が続き、勇壮な海上絵巻を演出する。この祭りは宮島、大三島と並ぶ瀬戸内海の三大管弦祭として知られ、尾道、竹原、豊島、蒲刈島などから多数の漁船が集まることでも有名である。
愛媛県	興居島（ごごしま）の船踊り（松山市） ※愛媛県指定無形民俗文化財 問合せ先： 松山市文化財課 089-948-6603	船越和気比売神社の秋の祭礼に神輿の海上渡御に供奉して演じられる芸能（風流）である。この踊りの起源は明白ではないが、島の伝承によると、むかし内海にその威をふるった伊予水軍の勇士が、遠く転戦して凱旋するごとに、戦いの模様を留守の家族に演じてみせたのが、氏神の祭礼行事となり、伝承されたという。 10月6日に、伝馬船をもやって舞台を設け、歌舞伎や新作の舞踊などを演じる。演目は、「伊予水軍」「大阪城夏の陣」「先代萩」「太功記」「曾我兄弟」などで、大太鼓と拍子木に合わせた立ち回りがある。同時に、船のヘサキではボンデン踊りといって、氏子の中泊、軒島、由良、門田の4集落が奉納することになっていた。権伝馬は、瀬戸内海地域に広く祭